

焼津市歴史民俗資料館

Yaizu City Museum of History and Folklore

Museum Letter



資料館だより
118号

特別号

市内小学校 薙刀訓練の様子（焼津市文化財保存協会旧蔵）

焼津と戦争

戦後80年 あなたは戦争が何か知っていますか？



太平洋戦争の終戦から80年が経とうとしています。戦時中を生き抜いた方々も高齢になり、「戦争」というものが、本や動画のなかでのことのように感じられる現代。歴史の一部になりつつある「戦争」。「戦争」は私たちが日々を過ごすように、80年前には日常でした。私たちが暮らす「焼津」の町にも「戦争」はあったのです。今回は特別号、「焼津」と「戦争」を取り上げてみました。多くの方に「戦争」というものを知っていただけたらと思います。

貞善院（焼津6丁目）に疎開してきた児童（焼津市文化財保存協会旧蔵）

01

戦場に消えた焼津の漁船—徴用船

「徴用^{ちようよう}」とは、非常時に国が強制的に人や物を取り立てることです。昭和12年（1937）に日中戦争が始まると、焼津でも多くの漁船や乗組員が徴用され、軍需物資の輸送や、指定された海域で漁をしながら敵軍を監視する任務にあたりました。特に監視業務にあたった漁船には、機関銃1丁と小銃3〜4丁程度の装備しかありませんでした。敵の攻撃を受ければ逃げ場のない海上では、ひとたまりもなく撃沈されてしまった船も多く、大変過酷な任務でした。市内焼津地区では、延べ113隻の漁船が徴用され、400人以上の人が犠牲となりました。終戦直後、焼津港に残っていたカツオ・マグロ漁船は、わずかに13隻。この戦争で、焼津の漁業と水産業は、壊滅的な打撃を受けました。市内にある不岩院（石津）には、徴用され、沖縄戦に巻き込まれて犠牲となった「亀生丸」の供養碑があります。



第六勇喜丸乗組員の写真（焼津図書館旧蔵）

02

「特攻」に反対 ―夜間攻撃に特化した芙蓉部隊

昭和20年(1945)1月、海軍航空隊藤枝基地(現在の航空自衛隊静浜基地のある場所)に芙蓉部隊がつくられました。「芙蓉部隊」の名称は、藤枝基地からその姿を臨めた「富士山」の別名からつけられました。

太平洋戦争末期、戦況が悪化し敵艦に飛行機ごと体当たりする特攻攻撃が増える中、芙蓉部隊指揮官の美濃部正少佐は特攻攻撃に批判的でした。経験が浅いパイロットがやみくもに「特攻」をおこなうよりも、訓練を重ね夜間攻撃をおこなうほうが合理的であると主張したのです。

そのため、美濃部少佐は、隊員たちに「猫日課」と称して昼夜を逆転させた生活を送らせた上で、攻撃の成功率を高めるための夜間飛行と爆弾投下訓練を繰り返しました。芙蓉部隊は、粘り強く夜間戦闘をおこない「特攻だけが攻撃ではない」ということを実証、最後まで特攻をおこなわなかったとされています。*諸説あり

昭和20年3月末、沖縄での攻防戦に対応するため部隊の主力は鹿児島県へと移りましたが、隊員の訓練は引き続き藤枝基地でおこなわれました。この藤枝基地で訓練を終えた隊員たちは、沖縄方面へ飛び立ちました。終戦までに延べ786機が出撃、105人の隊員が命を落としました。航空自衛隊静浜基地の敷地には、芙蓉部隊の記念碑が残ります。

03

フィリピンで鯉節作り ―南方に夢を求めた皇道産業焼津実践団

鯉節は、戦前から焼津の主要産業の中心でした。昭和16年(1941)に始まった太平洋戦争の戦況が悪化すると、漁船の徴用が急増し、同時に多くの乗組員が軍に召集されたため、鯉節の原料であるカツオを手に入れることが難しくなりました。そこで、カツオが多く獲れるフィリピンなどの南方の島に焼津の分村を作り、鯉節の製造をおこなうという計画が持ち上がります。

昭和17年、のちに①鯉節店の3代目となる村松正之助が中心となって「皇道産業焼津実践団」が設立されました。以後フィリピンやボルネオに団員が次々と派遣され、鯉節製造にとりかかります。最終的な派遣人数は、フィリピン237人、ボルネオ342人にもなりました。しかし、戦局が悪化するにつれ団員たちは現地で兵士として召集され、300人近い犠牲者を出すという悲しい結末となりました。

焼津神社の境内には、亡くなった団員を祀る郷魂祠があります。「郷魂祠」に掲げられた額をよく見ると「魂」の字のつくりが、「鬼」では、ありません。これは、祀られている団員は、「鬼」などではなく、自分たちの大切な仲間であるという気持ちでこめられています。

焼津神社「郷魂祠」の額



やまどんと辿る市内に残る戦争の跡・空襲の記録



朝比奈川（焼津市関方付近）

01

焼津に模擬原爆が落ちた

昭和20年（1945）7月26日の朝、アメリカ軍爆撃機 B29 から大型爆弾が落とされ、中港にある宗像神社の北側の瀬戸川土手で爆発しました。この爆弾は、約5トもある超大型爆弾で、長崎に落とされた原子爆弾と同じ型の模擬原爆でした。アメリカ軍は、日本に原爆を落とすことを予定していて、模擬原爆を使い日本各地で投下訓練を行っていたようです。この爆発で住宅6戸が全壊し、爆弾やガラスの破片で6人が負傷しました。

戦後、爆弾が落ちた跡には水が溜まり、子どもたちの水遊びの場所になっていたそうです。



模擬原爆の破片
（松永六郎氏蔵）

03

バクダン淵

昭和20年（1945年）5月19日午前10時頃、アメリカの戦闘機 B29 が来襲し、爆弾を投下しました。そのうち2発が着弾したのが、この場所になります。この爆撃で、成人男女各1名と小学生の男児2名が犠牲となりました。

戦後河川改修が行われるまでは、この場所には大きな穴があいており「バクダン淵」と呼ばれていました。

04

その他

その他、焼津、小川、鯛ヶ島、石津に空襲による被害の記録があります。また、藤枝基地には昭和20年2月以降、確認されているだけで7回の空襲があり、犠牲者も出ています。近隣の民家には、アメリカ軍の空襲に備えるため、芙蓉部隊の飛行機を庭の茂みに隠していたという話も伝わります。

【参考文献】

『焼津市史通史編下巻』焼津市・2006年

『大井川町史下巻』大井川町・1992年

防衛省航空自衛隊静浜基地ホームページ内「芙蓉部隊」



02

海軍航空無線通信所跡

小川中学校の敷地には、戦時中海軍の航空無線通信所がありました。芙蓉部隊があった藤枝基地が空襲を受けるようになると、鉄筋コンクリート製の防空壕も作られました。戦後、一部が小川中学校の体育器具室として使用されていました。



焼津市立小川中学校



YAZU. HEARN. REKI. MUSEUM

【発行・問合せ】

焼津市歴史民俗資料館

〒425-0071

静岡県焼津市三ヶ名 1550

☎ 054-629-6847

2025. 7. 1 発行

探しています。戦争にまつわる資料



今年は、終戦から80年の節目の年となります。戦争体験者が減り、当時を伝える貴重な資料も失われつつあります。そこで、**焼津市にゆかりのある**戦時中の暮らしに関するものや戦争遺品などがありましたら、情報をお寄せください。

情報提供いただいた資料については、所蔵者様のご意向と当館の収蔵状況によりご寄贈いただくか、記録撮影をおこなうかを決めさせていただきます。

【資料の例】

戦時中の日記や手紙、戦時中の写真、徴用船関係資料、戦時中の学校や子どもの遊びに関するもの、戦時中の生活用品、軍隊に関する資料（召集令状、投下ビラ）、戦時中のポスター、雑誌、新聞ほか